



CQM(超短期経済予測モデル)

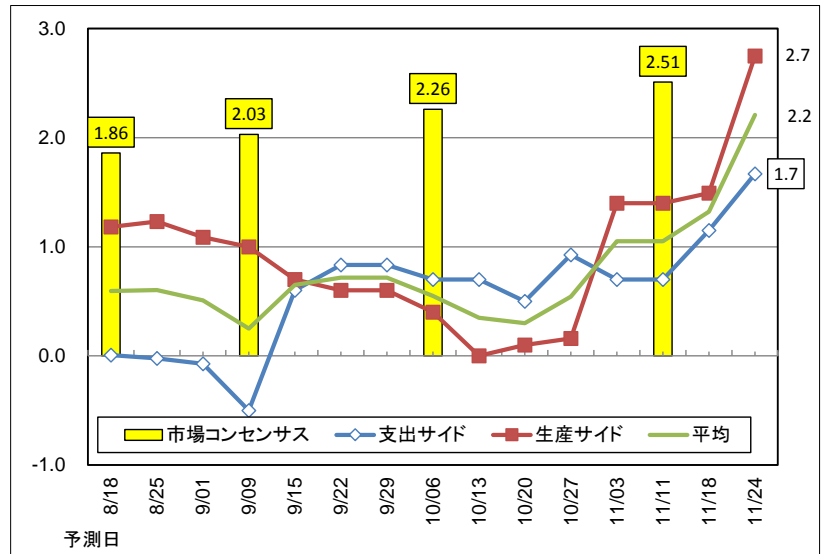
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年11月24日)

## ポイント

- ▶ 今回の予測で更新されたデータは、10月の貿易統計である。これらは、純輸出の予測値に影響を与える。
- ▶ 10月の輸出金額は5カ月連続の前月比プラス、輸入金額も2カ月連続のプラス。実績値はともに事前予測を上回った結果、10-12月期の名目財貨・サービス輸出入の予測値は先週から上方修正された。
- ▶ 財貨・サービス輸出入の予測値は先週からともに上方修正されたが、輸出の修正幅が輸入のそれを上回ったため、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された。
- ▶ 新たなデータを更新した結果、今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+1.7%と予測。先週の予測から上方修正となった。10-12月期は内需、純輸出ともに小幅拡大する。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014年10-12月期(%, 前期比年率換算)



### <10-12月期、純輸出拡大の兆し>

今回の予測(11/24)で更新されたデータは、10月の貿易統計、9月の全産業活動指数、旅行取扱額及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは、純輸出の予測値に影響を与える。

財務省発表の貿易統計(速報)によると、10月の貿易収支は-7,100億円と28カ月連続の赤字を記録したが、赤字幅は前年同月比-35.5%縮小した。季節調整値は-9,775億円と44カ月連続の赤字となったが、前月比-8.4%減少した。2カ月ぶりのマイナス。結果、10月の貿易赤字は7-9月平均比-2.3%低い水準である。

10月の輸出金額は前月比+1.9%と5カ月連続のプラス。実績値は事前予測(同+0.6%)を上回ったため、10-12月期の名目財貨・サービス輸出の予測値は先週から上方修正された(前期比+2.3%→同+3.5%)。一方、10月の輸入金額は前月比+0.4%と2カ月連続のプラスとなった。実績値は事前予測(同-0.4%)を上回った。結果、10-12月期の名目財貨・サービス輸入の予測値は先週から上方修正された(前期比+2.1%→同+2.6%)。名目財貨・サービス輸出、輸入の予測値は先週からともに上方修正されたが、輸出の修正幅が輸入の修正幅を上回ったため、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された(10.924兆円→11.596兆円)。

新たなデータを更新した結果、今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.4%、同年率+1.7%と予測。先週の予測(+1.1%)から上方修正となった。10-12月期は内需(前期比+0.2%)、純輸出(同+0.2%)ともに小幅拡大する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690